

左の文章を読んで後の設問に答えよ。

野は菊・萩咲きて、秋のけしきほど⁽¹⁾ しめやかにおもしろきことはなし。心ある人は、歌こそ和国の風俗なれ。何によらず、^(注1)花車の道こそ一興なれ。

奈良の都のひがし町に、⁽²⁾しをらしく住みなして、^(注2)興福寺の花の水をくま^(a)せ、かくれもなき^(注3)楽助なり。

ある時、この里のござかしき者ども、^(注4)朝顔の茶の湯をのぞみしに、かねがね日を約束して、万に心を付けて、その^(注5)朝七つよりこしらへ、この客を待つに、大方時分こそあれ、昼前に来て、案内をいふ。

⁽⁴⁾亭主腹立して客を^(注6)露地に入れてから提灯をともして、むかひに出づるに、⁽⁵⁾客はまだ合点ゆかず、夜の足元^(あしもと)するこそをかしけれ。あるじおもしろから^(b)ねば、⁽⁶⁾花入れに土つきたる^(注7)芋の葉を生けて見すれども、⁽⁷⁾その通りなり。とかく⁽⁸⁾心得ぬ人には、心得あるべし。亭主も客も、心ひとつの^(注8)数寄人^(すきびと)にあらざしては、たのしみも欠くるなり。

むかし^(注9)功者なる、茶の湯を出ださ^(c)れしに、庭の掃除もなく、⁽⁹⁾梢^(こずえ)の秋のけしきをそのままにしておかれしに、客もはや心を付けて、⁽⁹⁾いかさまめづらしき道具出づべきとおもふに、案

〔メモ〕

のごとく掛物に、「^(注10)八重葎しげれ^(d)る宿」の古歌を掛けられる。

またある人に、^(注11)漢の茶の湯をのぞみしに、諸道具、皆唐物をかざられしに、掛物ばかり、

^(注12)安倍仲麿が詠みし、「天の原ふりさけ見れば春日なる三笠の山に出でし月かも」の歌を掛け

られたり。いづれも感ずるに、「この歌は、仲麿、唐土から古里をおもつて詠みし歌なり」とし

ばらく⁽¹⁰⁾亭主の作のほどを詠めけるとなり。「客もかかる人こそ、⁽¹¹⁾この道をすかるる甲斐あれ」、

とある人の語りし。

(西鶴諸国ばなし)による)

(注) 1 花車の道——風流の道。

2 興福寺の花の水——興福寺西金堂のほとりにある「花の井」と呼ばれる井戸の名水。

3 楽助——安楽な身の上の人。

4 朝顔の茶の湯——千利休の催した茶の湯。はじめの会では庭に多くの朝顔を植えて評判を取り、豊臣秀吉の要望により催した次の会では庭でなく、茶室の床に朝顔を一輪のみ生けて客を唸らせ

5 朝七つ——午前四時ころ。朝茶の湯は早暁の暗いころから催す。

6 露地——茶室までの間にある庭。

7 芋——ここはサツマイモのこと。ヒルガオ科の蔓草で、花は昼顔に似る。

8 数寄人——茶の湯の愛好者をいう。

9 功者——熟達した人。ここは茶の湯のそれをいう。

10 「八重葎しげれる宿」の古歌——「八重葎茂れる宿のさびしきに人こそ見えね秋は来にけり」
〔拾遺集〕「小倉百人一首」など。

11 漢の茶の湯——中国製の道具類を用いて催す茶の湯。

12 安倍仲麿——安倍仲麻呂。奈良時代の人で、唐に渡り、帰国を果たさずその地で没した。「天の原」の歌は『古今集』『小倉百人一首』などに所収。

問一

——線部の(a)～(d)の助動詞について、それぞれの用法上の説明として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。ただし、同じ番号を二度以上用いてはならない。

- | | | | |
|------|------|------|------|
| 1 受身 | 2 尊敬 | 3 自発 | 4 可能 |
| 5 使役 | 6 存続 | 7 打消 | |

問二

——線部(1)の現代語訳として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- | | | |
|-------------|------------|-------------|
| 1 ほのかに香って | 2 ひっそり目立たず | 3 しっとり落ち着いて |
| 4 ゆつたりくつろいで | 5 すっきり爽やかで | |

問三 —— 線部(2)の現代語訳として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 上品に
- 2 派手に
- 3 のんびりと
- 4 こつそりと
- 5 わびしく

問四 —— 線部(3)の現代語訳として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 生計を立て
- 2 破産して
- 3 健康を損ない
- 4 養生して
- 5 没頭して

問五 —— 線部(4)の「腹立し」た理由として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 人の家を訪問する場合には、食事時は避けるべきなのに、その常識もない客たちなので。
- 2 朝早く茶の湯用の水が欲しいと頼んだのに、客たちが持って来たのが昼前だったから。
- 3 「朝顔の茶の湯」の約束なのに、客たちの来訪が昼前で、準備が無くなってしまったから。
- 4 「朝顔の茶の湯」の約束をしたのに、わざと昼食時を見計らって客たちがやって来たので。
- 5 約束をきちんとしたのに、約束の朝が過ぎてから、客たちが茶の湯が何時かをたずねに来たから。

問六 —— 線部(5)の「夜の足元」をしたのはなぜか。その理由の説明として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 亭主の趣向と勘違いし、それに合わせようと演技したため。
- 2 亭主の怒りを和らげるため、おどけて笑わせようとしたため。
- 3 亭主の怒りが理不尽なので、真似をしてからかおうとしたため。
- 4 亭主の思いがけない行動にうろたえてしまったため。
- 5 亭主の親切心が理解できず、一瞬ためらったため。

問七 —— 線部(6)の行為が暗示する意味内容として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 昼時分であること
- 2 秋であること
- 3 食事時であること
- 4 風流であること
- 5 鈍感であること

問八 —— 線部(7)の解釈として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 亭主が怒りにまかせ、花入れに土の付いたままイモの葉を生けたのも、もつともである。
- 2 亭主は客の失態ににこりともせず、無表情のまま、花入れに土の付いたイモの葉を生けた。
- 3 亭主の怒りがそのまま行動に表れ、乱暴にも、花入れに土の付いたイモの葉を生けてしまった。

4 亭主の機嫌を直そうと、花入れに土の付いたイモの葉を生けてみせたが、そのまま直らなかつた。

5 亭主が花入れに土の付いたイモの葉を生けて表した皮肉にも、そのまま気付かないでいた。

問九 —— 線部(8)に該当するもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 心ある人
- 2 ひがし町に住む樂助
- 3 この里のござかしき者ども
- 4 亭主
- 5 ある人

問十 —— 線部(9)の現代語訳として最も適當なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 きつと
- 2 なんとしても
- 3 ぜひ
- 4 ひよつとして
- 5 なるほど

問十一 —— 線部(10)の「作」のおもしろさはどこにあるか。その説明として最も適當なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 奈良での茶の湯の会で、古里奈良をしのぶ安倍仲磨の歌を掛軸にしたところ。
- 2 唐物を揃えた中に、亭主の書いた歌の掛軸を交ぜることで自立させたところ。
- 3 「漢の茶の湯」で唐物を揃えても、やはり日本の物が一番だ、と掛軸で示唆したところ。

4 日本のよさは唐土に渡って見ればよく分かる、と掛軸の安倍仲麿の歌で示唆したところ。

5 「漢の茶の湯」で唯一日本のものと思われた掛軸も、やはり唐に関係していたところ。

問十二 —— 線部(II)の「道」の解釈として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- | | | | | | |
|---|------|---|---------------------------|---|-------|
| 1 | 和歌の道 | 2 | 風流の道 | 3 | 茶の湯の道 |
| 4 | 陶芸の道 | 5 | 骨董 <small>こっとう</small> の道 | | |